

会議録様式

審議会名	令和2年度第3回杉戸町立図書館協議会
開催日時	令和3年3月23日(火) 午後2時00分～4時00分
開催場所	生涯学習センター 集会室1・2
会議の議題	(1) (仮称) 図書館基本計画の策定のアンケート結果について (2) 10～3月の運営報告 (3) 令和3年度運営計画 (4) その他
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 非公開 (公開の場合傍聴者数 7人) (非公開の場合理由)
出席委員氏名 (敬称略)	杉野正純 山口和子 荻原俊文 寺崎恵子 正司顯好 濱田幸子 室伏加代子
審議の概要	1 審議事項 (1) (仮称) 図書館基本計画の策定のアンケート結果について (2) 令和2年度10～3月の運営報告 (3) 令和3年度運営計画 2 審議の概要 (1) (仮称) 図書館基本計画の策定のアンケート結果について (説明: 小暮館長) <b>委員)</b> アンケートの結果に対して図書館として、どう考えているか?これから分析は必要だと思うので、感想等を聞かせてもらいたい。 <b>事務局)</b> 非常に印象が強かったのは、「図書館の場所を知らない」、「(図書館を)利用したことがない」が多かったこと。これを受け、例えば問いに「遠いから行かない」、「本は自分で買うので図書館を利用しない」と回答した人にアプローチするのは難しいと思う。そのため、アプローチしなければいけない層を見極めながら、運営をしていきたい。具体的には、高齢で図書館に来ることが出来ないというご意見があれば、本の宅配をするなど、色々な手段を考えながら、住民の方の不満と思われる部分を解消していかないといけないと思っている。 <b>委員)</b> このアンケートを見て、「利用したことがない」、「以前は利用していたがやめてしまった」回答には衝撃を受けた。また、もう1つ目立ったのは、資料の充実を願う声も多いこと。そこを改善していくことによって、利用は伸びるのではないかと。

「利用したことがない」、「以前は利用していたがやめてしまった」と回答した人の理由として、図書館が自宅から遠いという立地がかなり利用条件に関わってくるのだろうと感じた。

**事務局)** 先ほどの説明に補足をさせていただきたい。無作為抽出のアンケート問5の所で、数年に一回、年に数回と回答した人と、以前利用していたがやめてしまった人の三つの層をどうにかして引き戻せる策を考えなければならないと考えている。具体的な策に関してはこれから考えていきたい。年代ごとのニーズが見えてきたので、このデータを見ながら色々考えていくべきではないかと思っている。

**委員)** 「利用したことがない」、「図書館の場所を知らなかった」という意見に対して、一番ショックを受けた。図書館の存在が忘れられてしまっているのかという気もする。この図書館が出来た当初は、町の広報などでも話題となって、認知度もあったのではないかと理解しているが、そこから十数年、そこが薄らいできてしまったのではないかと感じる。最近、町の広報で図書館の特集をやったことはあるのか？

**事務局)** 毎月、イベント等の掲載スペースはあるが、年に1、2回くらいは広報の見開き1ページを使わせてもらう場合があるが、他の課との調整もあるので、毎回というわけにはいかないという実情がある。

**委員)** 全国紙、新聞や文部科学省の取り組み紹介にもイベントが紹介されている。という事であれば、もう少し認知度があってもいいのではないか。やはり町の広報はある程度見る方が限られてしまう。高齢の方は高い割合で見ていると思うが、それ以外の方はあまり広報を読まない傾向があると聞いたことがあるので、広報に載せる方法も1つだとは思いますが、他に、一番知られていないという部分をどうにかしないといけないと思う。

**委員)** 今年度学校も、新型コロナウイルス感染症の対策に迫われ、今年度一度も図書室を開室することが出来なかった。明らかに子供たちの読書量は減っている。年度初めの休校による授業の遅れを取り戻すために、期間を設けて行っていた朝の読書の時間を削った。このような状況の中で、本来は10代の青少年の図書館利用率が上がらなければならないと思う。今年度は難しいが、今後よりいっそう小中高校生の図書館来館を促すような対策を講じなければならないと考えている。例えば、各学校に図書館だよりの配布数を増やすと

か、図書館だよりを各教室に掲示するとか。学校と図書館との橋渡しができたらと考えている。

**委員)** やはり利用してもらうのを待っているだけではないと思う。例えば学校に本を紹介する、こういった本が面白いと子供たちを図書館に誘っていくような試みをもっと積極的にやってもいいのでは。それからアンケート結果の中で、問 12 に対し、選択肢 19 を選択した人が、どのような状況にあるのか。本を読みたくないという意味なのか、それとも図書館の利用をしたくないという意味なのか。それを踏まえ年齢層を実際に見てみると 60 代と 70 代が多く、これは恐らく、図書館は利用しないが本は読みたい層なのではないか。ただ、本を読むために体力等も必要で、体の衰え等から本を読むのが億劫になってしまっているように感じ取れる。ラジオの深夜便を聞いているという人がいるように、聞くことによって本を味わうという世代に入っているのではないか。今後は図書館としてそのニーズにも応えていってもいいのではないか。また、その他の回答欄で移動図書館があればいいのではという意見出てきたが、山梨の図書館で閉館しなければならないが、本を読みたいという需要はあるだろうということで、移動式の図書館に切り替えた所、利用者が増えたとの事例もある。そういった事例から、杉戸も呼ぶだけでなく自ら出ていく、また利用者を誘ってみるということも、図書館の利用だけでなく、本を通じて、人との関われるということを発信することで、巡りめぐって図書館の利用促進につながるのではないか。

**委員)** 今の話を受けてどう感じるか？

**事務局)** 高齢の方になると、目が見えづらいという部分で、よくオーディオブックとかあったりする。あとは電子書籍で文字を大きくして読むなどという方法があるが、ただし高齢になるとタブレットやパソコン等での操作は難しいと思うが、そういった方法も 1 つの選択肢だと考えているので、予算等の兼ね合いも考えながら、ご意見として承り、内部で検討したいと思う。また、こちらから外へ出向いていくという部分だが、今年度より「ブックトーク」を出向いで行っている。「ブックトーク」の詳細な内容についてはのちほど説明する。そういった積み重ねで、子供を中心に図書館に来ていただけるような取り組みはどんどん行っていきたいと思っている。

**委員)** 非常に貴重なアンケート調査で、これをどのように分析していくか、これが最も大事なこと。今回無作為抽出、図書館、公民館図書室の 3 つの視点から行ったのは、素晴らしい視点。そこで、この 3 つのアンケートを分析して、何かわかること、あるいは特色や

違い等、そういったところまで現時点で踏み込んでいるのか。

**事務局)** 申し訳ないが、細かい分析まではまだ行うことが出来ていない。図書館の場所を知らない、図書館の存在を知らない人が多いという部分に関しては、広報等を活用して、ただ案内を載せるわけではなく、図書館の使い方や図書館を使ってみようかなと感じさせる投げかけをする工夫も必要だと感じた。後は先ほどの回答と重複するが、無作為抽出アンケートの問5の部分の利用を止めてしまった人をどのように引き戻すか、頻度が低い人をどのようにしてもっと利用してもらうようにするか。基本的に図書館を利用する人というのは、個人的な意見になるが、個人の認知の奪い合いになると考えている。人それぞれ仕事や睡眠などいろいろな作業があるが、その中でいかに図書館という存在を思い出してもらうか、もう少し考えないといけないと感じた。また、来館してもらったときに、図書館に来てよかったと感じてもらえるためにはどうしたらいいか等、そういった工夫が必要だと感じた。

**委員)** 先ほど図書館を知らなかったという事実に対して、館長がびっくりしたという意見を出して、同じような意見が続出したが、そこに焦点を絞るのであれば、何故そう言った事象が起きているのか、そこを解消するために、どこまで切り込んでいけないといけないのか、また、その他の意見は、意見があるから一言二言書くもので、これは数字よりも貴重な意見がそこに隠れているかもしれない。なので、その一つ一つの意見を分析することで解決のヒントがそこに隠れているかもしれない。視点を変えていくことで、分析の仕方も変わっていくと思う。他業務もあるので、それだけに特化することは難しいと思うが、図書館は全ての世代の人にサービスを提供していかないといけないという使命を担っているので、その観点からの分析を細かく、どんな視点を持って分析していくかによって杉戸町立図書館の明日が決まってくるのでは。

**委員)** 今年度コロナ禍で、前年度に比べて利用状況が大幅に違っている中でのアンケート結果ではあるが、もう少し正確なスタッフの対応とか、一部業務委託に変わったことに関して、その数字が見て取れるような通常通りの開館日数や通常利用が出来ていなかったのではないかと思った。なのであくまでアンケートは参考かなという思いがある。ただ、図書館の場所を知らなかったということに関しては、無作為抽出なので、そういった方もいるのかなと感じた。

**委員)** (図書館の場所を)知らない人がいるということで、今年はできていないが「ブックスタート」の手伝いに行っていると、若いお

子さんが生まれたばかりのお母さんの中で図書館の場所を知らない方が結構いるので、その度に図書館の紹介などをしていたが、場所の説明も、近くに住んでいる人なら存在は知っていたが、杉戸町でも違うエリアに住んでいる方は存在もわからないし、説明をされても場所のイメージもつきづらいように感じた。なので、図書館利用案内に掲載されている地図ももっと簡略化して分かりやすい地図にしてもらえると良い。広報でも毎回HPの中に地図を掲載し、図書館の場所を知らない人に分かるようにしていければ良いと思う。また、何があっても図書館を使わないという人がいるのは、今は特に生活の仕方が変わってきているし、そういう意味で当然そういった数字が出てくるものだと思っている。本が無くても生活できているという人もたくさんいる。また、本は買うからいいという人は、今は特に本はネットで簡単に手に入って中古だと定価より安く入手できる。昔に比べて身近に様々な本が手に入るようになり、一見便利に見える反面、新刊本、有名、人気本は簡単に手に入るが、ちょっと掘り下げた本、専門性が高まった本で調べたいとなったときに、本来であれば図書館の出番になるはず。その際にこういった本が揃っています、と勧められるものがあれば図書館の強みになると思うので、掘り下げて調べたい時に図書館が使えるともっと宣伝していいと思う。また、今回のコロナ禍で自分の生活を見直した人も多いと思う。忙しく読書をする時間がなかったが、時間が出来たので読んでみるとか、若い頃に読んだ本をまた読んでみようとかになったときに図書館に来館できるようになったので、今が一番チャンスなのではないかと感じている。まだ人混みに出かけるのは怖いですが、図書館なら充実して過ごせるとアピールしていけば、少し違ってくるのかなと感じた。今回生活を見直した人をうまく捕まえられればと思う。

**委員)** 何か意見はあるか？

**事務局)** 今チャンスとおっしゃられたが、そういった生活を見直すという方も多いと思うので、そういった方のニーズを捕まえられるよう、どんどん情報発信していかなければいけないと思った。

**委員)** 今後この集計したアンケートについて、どのような形で公表していくのか？

**事務局)** 来月中にはホームページ上で、公開する予定。

(2) 令和2年度10～3月の運営報告 (説明：張ヶ谷主査)

委員) ブックトークをおこなったのは張ヶ谷主査か?

張ヶ谷) 今回ブックトークを行ったのは4学年だが、2学年は私、もう2学年はヴィアックス側で行った。

委員) それはなぜ?

張ヶ谷) 小学校より依頼があったのは年明けで、準備期間が短かったため、まず経験者である私を一番手として、その後ヴィアックスにおこなってもらった。

委員) 今、公民館図書室の本の管理は図書館がやっている?

事務局) 図書館が行っている。

委員) それは部屋の管理や、貸出しもそうか?

事務局) 部屋の管理や貸出しは公民館の委託職員が行っている。

委員) 12月27日に公民館を全館見て回った時よりも綺麗になっていたが、公民館には予算がついていないので、雑誌は最新のものではない。かなり情報が古いものである。またこれはその際の話だが、見て回っていた際に、12月27日までは開館しているはずなのに、1館だけ閉館していた。今日までは開いているはずだと声をかけて、本館に確認をしてもらったところ、誤りだと判明したので、至急開館したようだが。今回は緊急であったので仕方のないことだとは思いますが、図書館として運営していくのであれば、誰かが公民館図書室をしっかりとチェックしないと駄目だと思う。なのでどこが管理をするのか明確にしてほしい。また、前回開催時に公民館図書室を見学することを提案したのは、この図書館をつくる時に、既に町には「全町図書館構想」というのがあり、公民館図書室も図書館の一部としてどこに住んでいる人達も、すぐに本に近づけるようにしようということで、公民館図書室も図書館の一部としてやっていこうという計画があったはず。それが現在も生きていないはずなので、失礼ながら今年度の杉戸町の教育の中に、図書館の計画があり、その中に「全町図書館構想」がまだ残っていた。なので、先ほど図書館が遠いという話もあったが、もっともっと公民館図書室も充実させることによって、本につながる人たちが出てくると思う。公民館の図書室を普段利用しながら、公民館で足りない部分は、本館に行くという活用法もできるはず。また現在は高齢化がかなり進んでいるので、車を手放す人が多い。そうすると身近で本を読みたいとなった

場合に、借りる場所は必然的に公民館図書室になると思う。なので公民館図書室のことも考えていくことによって、図書館を利用するという部分につながることもあると思うのでもう少し公民館図書室のことも考えてほしい。

**委員)** 何か意見はあるか？

**事務局)** 12月27日の件は、後で確認をさせていただきたい。本来は冒頭で説明すべきだったが、濱田委員より今回の協議会は西公民館での開催を、という意見をもらっていたが日程の調整がつかず、申し訳なかった。次回は西公民館で行いたい。

**事務局)** もう1点追加で、西公民館に正式に予算がついた。金額でいうと150万円前後。なので来年度、西公民館を協議会会場としたときに、皆様にも実際に見てもらってどのような本がいいかと言うことを改めて相談させてもらいたい。

**委員)** 今の予算の件は、資料費がついたということでよいか？

**事務局)** その認識で間違いない。

**委員)** 先ほど話が出た「全町図書館構想」については、行政側がどのような考えを持っているかは分からないが、既存の施設があることと、図書館がこの場所に建っているということもあるので、そこを生かさない手はない。図書館が遠くて行けないという話もあったが、それをクリアする手段として使わざるを得ないという理解はしている。そういった共通理解になってもらえればありがたい。

**事務局)** 西公民館を来年度で色々変えていきたいと思っている。その中で課題などが色々出て来ると思うので、課題を生かしながら、少しずつではあるが、装飾を設置したり、変えたりしていきたい。元々の備品(書棚や壁)は変えることはできないが、装飾が入ることで、入室した際に雰囲気を変えられるのではないかと考えている。また予算がつけば、その度に、新しい資料に変えたりしていきたい。

**委員)** 図書館というのは町民の「知」を掘り起こす拠点だと思っている。そこで図書館だよりを見ていると季節感があってよい。この図書館だよりはどこに配布しているのか？

**事務局)** 配布場所は役場の社会教育課、各公民館、幼稚園、保育園、子育て支援センター、各小中学校、埼玉県内の各市町村図書館となっている。

**委員)** 図書館だよりに公民館図書室の情報を載せて一目でわかるようにすれば、杉戸町内の各世帯に配れば認知度は高まるのでは？  
図書館の場所を移動することはできないので、皆がここに来たくなるような情報発信をしっかりとしていく必要があるのでは。ぜひ検討いただきたい。

**委員)** 図書館だよりだが、ホームページには掲載しているか？

**事務局)** 毎月掲載している。

**委員)** 町のホームページのシステムだが、そのページにたどり着くまでにとっても時間がかかる。資料の検索や施設の予約など、非常に使いづらい。不慣れな人に優しくないなので、町に要望を出してほしい。また、研修等あるのですぐにといいわけにはいかないだろうが、ボランティアを上手に活用してほしい。特に西公民館は読み聞かせボランティアや子供達が多く絵本等を借りていくが、本の順番がバラバラになっているので欲しい本を探すのに苦労する。そして図書室の担当職員は実質 1 人なので、とても書架整頓ができる状態ではない。なので、読み聞かせボランティアの講座のように募って、育成して各公民館で活動してもらえればよいのでは。

**事務局)** まず、ホームページについてだが、以前に担当課に要望を出したことがある。図書館は杉戸町で一番使われている公共施設でもあると説明したが、回答としては難しいとのことだった。なので今現在は現行のままになってしまう。図書整理ボランティアについては、もしいるのであれば大変ありがたいので実際に行っている近隣の市町村などから情報収集したいと考えている。

**委員)** ボランティアを希望する人はいると思う。図書館だより等でお知らせすれば、立候補する人も多くいるはずだ。また多くのボランティアが集まれば、先ほどの「全町図書館構想」ともつながってくると思う。

**委員)** ボランティアの話は確かにその通りだと思うが、今図書館で目立った活動をしている所は、規模に関わらず、市町村職員とそれを取り巻くボランティアの方や市民町民の方とうまく連携してやっている所が大部分。直営で全てを完結させようというのは実際問題無理な話。勿論これからも町でやるという気持ちは大事だが、上手く組織の力を使うという観点を持っていて、それをどういう風にするかというのを考えていく方が先かと思う。なので、町の職員がブックトークを行うのもいいとは思いますが、町には読み聞かせのボランティアもいるので、その方たちと上手く連携して、研修を行うとかした方がいいと思う。

**委員)** 先ほどの意見と重複する部分はあるが、公民館図書室は運営が委託だったと思う。なので少し勘違いなど、意識の差というものがある。そういったことが起こるたびに言うことはできないので、



出来るだけ図書に関することに関しては、統一した認識を持ってほしい。例えば最近あった例だと、公民館に図書消毒機が設置されているが、図書館のいきさつを考えると、これはあくまで良かったらどうぞ、というお願いであり、必ずやってほしいという義務ではないと思う。消毒機の利用を強制されたことがあったので、そのあたりの認識も統一してほしい。

**事務局)** その件については以前ご意見をもらって、確認したところ、公民館職員に正しく伝達されていなかったもので、本館と同じ対応に改めるように伝えた。

**委員)** ブックトークに参加した際、子供たちは本を借りられるのか？

**事務局)** 貸出可能。ブックトークに使用した本は可能な限り複数冊、またそのテーマに関連した本を図書館で選んで合計冊数がクラスの人数分位になるようにしている。またその本を1か月間学校へ貸出し、自由に読んでもらう期間として設けている。ただしクラス数が多い場合には、人数分用意できないこともあるので、その場合は皆で仲良く読むように説明している。小学校に1か月貸出したのち、アンケート回収時に本と一緒に回収するという流れになっている。今後は本来図書館ではあまり複本を増やしていなかったが、定番本などはブックトーク用での使用などを考えて、購入も考えた方がいいかとは思っている。

### (3) 令和3年度運営計画（説明：小暮館長、張ヶ谷主査）

**委員)** ライブラリースタートの発想はとてもいいが、3つのスタンプを押すことでドリンクがもらえるという部分が少々俗っぽいと感じた。食べ物や飲み物で喜んでもらうというよりは、本を知る喜びなどを感じてもらいたいと思っているので、もし何かをプレゼントするのであれば折り紙とか、他の物でもよかったのではと感じた。また、茶房ほほえみの支援に関しては、また別の角度から考えることもできるのではないかと思う。また、最近はジュース類を飲ませない親御さんも多いので、ジュースをプレゼントするというところに引っ掛かりを覚えた。

**事務局)** この事業をやることで、裾野が広がってほしいと感じている。そういった催しがあるなら図書館に行ってみようと思って来館し、読書に対して楽しかったとか、肯定的な思いをもってもらえればと感じている。また、子供はスタンプカードが好きだったりもするので。勿論そういった意見もあるかとは思いますが、裾野を広げるという意味でご理解いただけたら。

**委員)** 予算の8万円とは、どのくらいの人数を想定しているか？

**事務局)** 160名程度を想定している。杉戸町の3歳の人口が250名なので、おそらく全員は来ないと想定し計上したが、実際に始まってみないとはっきりしない部分でもあるので、予算については臨機応変に対応していきたいと思う。

**委員)** 折角3歳児健診をきっかけにして、本を親子で楽しみながら、ジュースもあるという事だが、あともう一つ。図書館は本を読むというところで、図書館に来た親子をサポートしてあげるという事が必要かと思う。例えば、一緒に読んだ本に3歳になると色々な反応を示すと思うが、それを他の親子と共有できるようにしたらどうか。この絵本のこのページがこういう反応をしたとか、そういったものを小さい紙などに書き残して貼っていくと、他の親子の参考にもなるし、直接ではないが交流もできるのではないか。図書館に来て、目標達成して、ジュース飲んで終わりではなく、もっと本を交えてお喋りができるようなそんなきっかけを作ると、うちの子供にもこの本も借りてみようかな、というようなきっかけにもなると思う。また、図書館だよりについても本の紹介を発信していくことももちろん大事だが、実際に読んだ人の意見を少し入れておくことで、紙面を通じてコミュニケーションがとれていくと思う。読書サークルのような、本について語り合える、雑談できるようなコミュニティが形成されていけばいいと思う。

**委員)** 呼び水としては確かに効果的だと思う。ただしこれを一過性のもので終わらせないような、先ほど話があったコミュニティなど、違う展開が図れるようなものがあるといいと思う。

**事務局)** スタンプで貸出しとか返却とか、イベントでいい気持ちになってくれたら、というところまでで、その先について考えていなかったもので、内部で検討し、今後もう一步踏み出したいと思う。

**委員)** 事業計画に関しては、それぞれ計画を立てているのでいいとは思いますが、図書館の本来の姿とは何か?と考えたときに、例えばOPACの使い方が分からないとか、先代の館長の時に、「本の探し方講座」というものを行ったりしていた。そのような形で基本に立ち返れるような催しがあってもいいのではないかと。

**事務局)** 今後検討する。

**委員)** 要望になるが、おはなし会や子供映画会では参加してくれた子供にシールカードを配っており、シールを24枚集めると館長から賞状と粗品をもらえることになっているが、24回もイベントに参加

してくれているのに、粗品がエコバッグだったり、クリアファイルだったり。予算をかけなくてももう少し何とかならないか。工夫が欲しい。またこの件とは別になるが、宮代町立図書館や白岡市立図書館には図書用の館内で使えるカートがある。それがあれば子供のいる人でも、本を選びやすい。そこまで高いものではないし、消耗品でもないので、出来たら杉戸でも導入してもらいたい。

**事務局)** まず、読み聞かせ等子供向けイベントの粗品についてだが、近隣市町村に聞いたりしているが、葉とか冊子とか難しいというのが実情。今はたまたまエコバッグがあったので、このバッグに本を入れてほしいという事で、渡している。今後もこういったものが粗品としていいのか、考えていきたい。また、カートについては来年度の予算要求の時に、出す方法を検討したい。

**【傍聴者退席】**

**高橋課長)** 長時間にわたり(1)～(3)の議事に対し審議していただき有難うございました。このアンケートの結果を受けて町民、利用されている方々がどう思われているか、分かった気がいたします。その中で、今回皆様から参考になる貴重な意見も多々出てきました。この意見を事務局側として受け止め、今後の図書館運営基本計画策定にあたり、非常に役立つものだと、生きてくるアンケート調査だったのではないかと思います。また、委員からもアンケートにはヒントが隠されているという話がありましたが、様々な観点からみると多くのヒントが隠されているように感じました。今後におきましても、杉戸町立図書館、社会教育課共々、一緒になって図書館事業の推進ができればと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。